

作成年月日	平成16年 7月 5日
作成部局課室名	県土整備部 県土企画局 交通政策担当課長 土木局 街路課 東播磨県民局 北播磨県民局 丹波県民局

## ＪＲ加古川線の電化開業及び高架切替について

### 1. 趣 旨

ＪＲ加古川線は、東播磨地域と北播磨地域を南北に縦断し、丹波地域へと結ぶ幹線鉄道であり、より利便性の高い鉄道ネットワークを構築するため、平成13年度より電化事業に取り組んできた。一方、加古川駅周辺の連続立体交差事業については、踏切の除却、新設道路の整備等により、都市交通を円滑化し、都市機能を強化するため、平成4年度に着手し、昨年5月には山陽本線の高架化が完成したところである。

このたび、ＪＲ加古川線電化工事及び高架切替について、ＪＲ西日本等と工事工程を調整した結果、平成16年12月19日（日）に、供用開始できる運びとなった。

県では、ＪＲ西日本、沿線市町と協力しあい、加古川線の電化開業と高架切替を記念した「記念事業」を開催するとともに、電化を契機に鉄道利用を促進し、沿線地域の活性化を図るため、平成16年8月から平成17年3月にかけて、地域住民とともに、県・地元市町等が主体となった「関連事業」を展開する。

### 2. ＪＲ加古川線電化事業の概要

- (1) 事業主体：ＪＲ西日本
- (2) 整備区間：加古川駅～谷川駅（48.5km）
- (3) 事業費：約46億円（地上設備）
- (4) 工期：平成13年度～16年度
- (5) 整備内容：変電設備、電車線設置、行き違い施設（市場駅）、ホーム改良 等  
なお、神野駅安全側線工事は平成17年3月完成予定

### 3. 加古川駅付近連続立体交差事業の概要

- (1) 事業主体：兵庫県
- (2) 整備区間：山陽本線（約2.4km）平成15年5月26日高架切替済み  
加古川線（約1.0km）
- (3) 事業費：約285億円
- (4) 工期：平成4年度～17年度
- (5) 整備内容：鉄道高架、車両基地の移設 等
- (6) 関連事業：都市計画道路及び駅前広場の整備、市街地開発事業（土地区画整理事業等）、ＪＲ山陽本線加古川橋梁改築工事

#### 4．電化開業及び高架切替予定日

平成16年12月19日(日)

#### 5．記念事業

##### 記念式典

開催日：電化開業・高架切替日

場 所：加古川市内

主 催：兵庫県・加古川市・JR西日本・JR加古川線電化促進期成同盟会の共催

##### 出発式

開催日：電化開業・高架切替日

場 所：加古川駅ホーム上（西脇市駅、谷川駅でも同日に開催予定）

主 催：JR西日本

#### 6．関連事業

電化開業・高架切替前の機運盛り上げと、その後の継続的な利用の促進を図るため、加古川沿線地域を中心に関連事業を展開する。

関連事業は、JR加古川線電化促進期成同盟会、東播磨流域文化協議会、県、沿線市町等がそれぞれ事業主体となり、参画と協働の基本姿勢のもと、地域の住民と一体となった事業の実施を目指す。

現在、検討調整中の関連事業は、以下のとおり。

##### JR加古川線電化完成キャンペーン

加古川駅周辺において、地域をあげて、電化開業及び高架切替の完成を記念したキャンペーン事業を展開する。開業の日及び加古川駅舎完成の日を中心に平成16年11月から平成17年3月にかけて各種事業をリレー状に展開する。

- ・リバーサイドファンタジー（街並イルミネーション）
- ・ストリート・パフォーマンス及び街角コンサート
- ・沿線ショートツーリズム
- ・協賛 駅前商店街祝賀バザール 他

##### 駅装飾

沿線の主な駅に看板による駅装飾等を行い、電化開業及び高架切替を祝う。

##### 駅花飾り事業

JR加古川線、三木鉄道、北条鉄道の各駅の内、10駅程度を対象として駅前に花壇を整備する。

##### ラッピング列車

西脇市出身の世界的アーティスト横尾忠則氏のデザインによるラッピング列車を運行し、加古川線の話題性を喚起する。

##### 新車両見学会

電化開業前に、車両製造工場若しくは車両基地において、県民を対象とした新車両の見学会を開催する。

### 新車両試乗会

電化開業前に、県民を対象とした新車両試乗会の開催を目指す。

### 車椅子利用者及び小学生の加古川駅見学会

加古川駅におけるエレベーター、身障者トイレ等のバリアフリー化に対する関心を高めてもらうため、車椅子利用者及び地元小学生等を対象とした新駅施設の説明・見学会を開催する。

### 加古川駅南広場の工事用仮囲いを利用した壁面ギャラリー

駅南広場の仮囲いに近隣の高校生等が“加古川らしさ”をテーマとした絵を描き、加古川線高架切替及び電化のPRを行う。

### (参考) 阪神・淡路大震災10周年記念事業への位置づけ

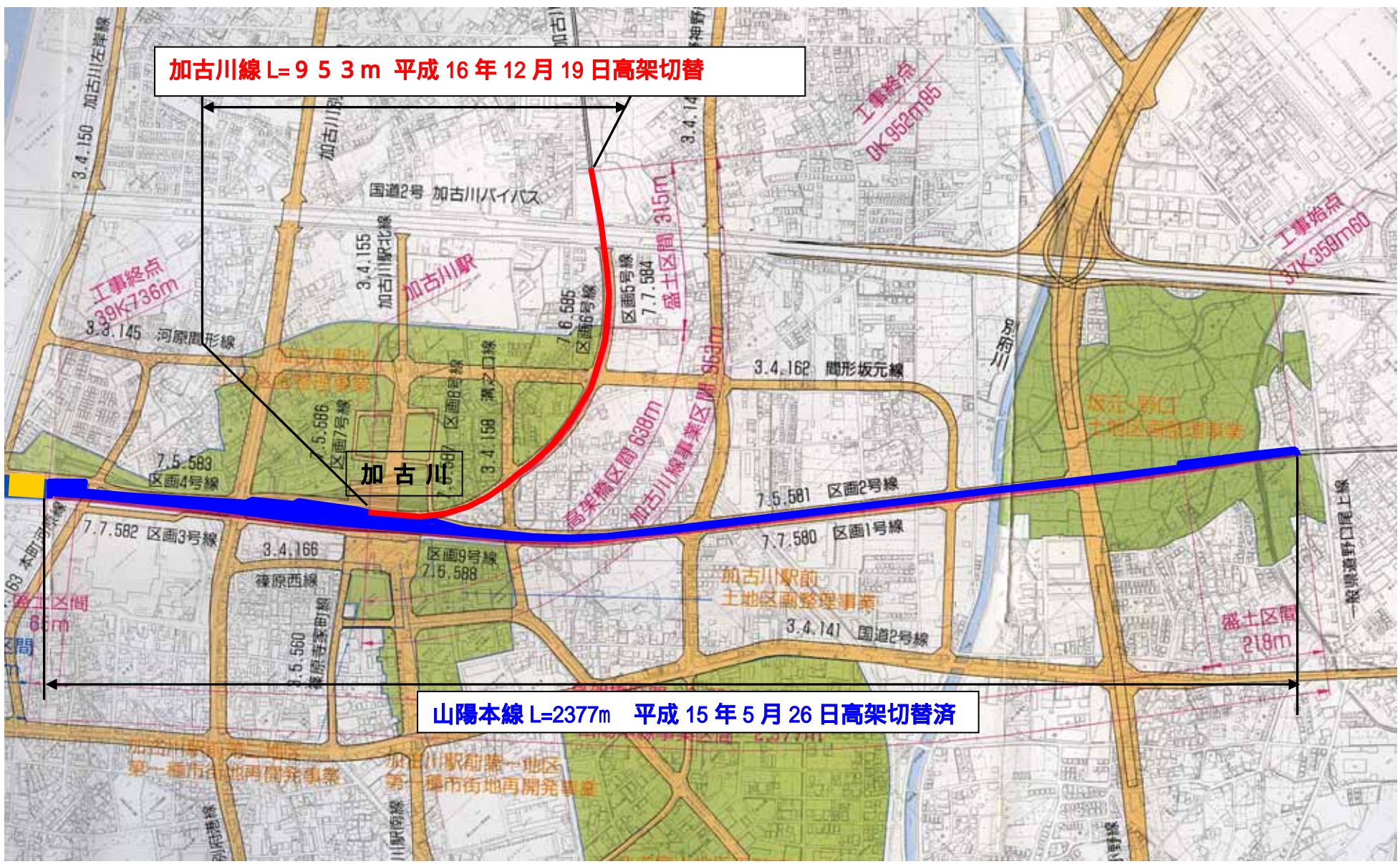
加古川線は、震災時の迂回ルートとして利用され、加古川線電化事業が県の復興計画に位置づけられていることを踏まえ、上記の記念事業、関連事業を、「阪神・淡路大震災10周年記念事業」に位置づけ、鉄道の利用促進とあわせて、広く地域住民に防災意識の関心を持っていただく。

# 加古川線電化事業の概要





### J R 加古川駅付近連続立体交差事業の概要





## 1 JR加古川線電化完成キャンペーン

- ・ JR加古川駅の山陽本線高架切替記念イベントの事例（平成15年5月26日）

JR加古川駅の山陽本線高架切替を記念して、加古川駅前地元商店街で、餅つき大会や和太鼓等のイベントを実施。



餅つき大会



和太鼓の演奏

## 2 駅装飾

- ・ 駅装飾 実施予定駅 ○

実施予定駅において、駅舎及び駅前を看板等で装飾するほか、利用促進のためのグッズ（例：観光マップ + 時刻表）の作成配付を行う



## 3 駅花飾り事業

- ・ 昨年実施した駅花飾り事業の事例

例年は、プランターや花の苗を提供して地元の方が植えてきたが、本年度は、花壇の設置を含め地元が取り組み、駅に対する愛着を持っていただく。



日本へそ公園駅



黒田庄駅



## 4 ラッピング列車

### 横尾忠則氏の略歴

1936年兵庫県西脇市生まれ、美術家、多摩美術大学教授も歴任

1960年代よりグラフィックデザイナーとして活躍し、72年ニューヨーク近代美術館（通称MOMA）で個展を開催、81年に画家に転向、

2000年ニューヨークADC（The Art Directors Club）殿堂入り、01年紫綬褒章受章、主要パブリックコレクション94館（国内59、海外35）

### 〔最近の展覧会〕

1997年 横尾忠則美術館（1966 - 1997：私への帰還）：兵庫県立美術館 他1館

2000年 横尾忠則ポスター芸術2000 1965：美術館「えき」（京都）

2001年 横尾忠則2つの境界：富山県立近代美術館、暗夜光路：原美術館（東京）

2002年 横親忠則森羅万象：東京都現代美術館、広島市現代美術館

2003年 横尾byヨコオ描くことの悦楽 イメージの遍歴と再生：京都国立近代美術館

### 【ラッピング】

アニメなどのイラストや広告等のデザインをシートに印刷し、列車やバスなどの公共交通の車体に貼り付けるもので、近年、徐々に増えてきている。

### 【ラッピング列車事例】

イラスト列車「恐竜号」は、平成10年度に、JR加古川線の電化促進と知名度アップを目的に、沿線市町とJR西日本が一般からデザインを公募し、運行を行ってきたが、定期検査のため、昨年12月に営業運転を終了した。



JR加古川線 「恐竜号」



## 5 新車見学会、6 新車両試乗会

- ・新車見学会及び新車両試乗会で使用される新車両と旧車両（ディーゼル車）の比較（新車両の写真は、加古川線に導入予定車両と同型の小浜線車両を示している）

### 車両全景

京阪神間に投入されているアーバンネットワーク車両のコンセプトを基本に開発された車両）



（新車両）



（旧車両）

### 車内

- ・車椅子の方がスムーズに車内を移動するために必要な通路幅の確保やトイレの身障者対応、自動ドア化など、バリアフリー化が図られている。
- ・転換式クロスシートの採用により乗り心地の改善を図り、大型窓の採用により、車内の明るさを演出している。



（新車両）



（旧車両）

## 7 加古川駅見学会

# 加古川駅見学会



加古川駅のバリアフリーに対する関心を高めてもらうため、地元小学生等を対象に新駅施設の見学会を開催する。  
(写真は平成15年4月実施状況)



## 8 加古川駅南駅前広場の工事用仮囲いを利用した壁面ギャラリー

近隣の高校生が“加古川らしさ”をテーマとした絵を描き、  
加古川線電化開業・高架切替をPRする。

